



CLI の使用

Catalyst 3750 スイッチは、Cisco IOS ソフトウェアでサポートされています。ここでは、ソフトウェア機能を設定するためのスイッチ CLI (コマンドラインインターフェイス) の使用方法について説明します。

これらの機能をサポートするコマンドの完全な説明については、[第 2 章「Catalyst 3750 スイッチ Cisco IOS コマンド」](#)を参照してください。ブート ロード コマンドの詳細情報については、[付録 A「Catalyst 3750 スイッチ ブート ロード コマンド」](#)を参照してください。`debug` コマンドの詳細情報については、[付録 B「Catalyst 3750 スイッチ デバッグ コマンド」](#)を参照してください。`show platform` コマンドの詳細情報については、[付録 C「Catalyst 3750 スイッチ show platform コマンド」](#)を参照してください。Cisco IOS Release 12.2 の詳細情報については、『*Cisco IOS Release 12.2 Command Summary*』を参照してください。

タスク指向の設定手順については、このリリースのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

このマニュアルでは、IP バージョン 6 (IPv6) について特に言及しないかぎり、IP とは IP バージョン 4 (IPv4) を意味します。

スイッチへのアクセス

スイッチ スタックおよびスタック メンバー インターフェイスは、スタック マスターを経由して管理します。スイッチごとにスタック メンバーを管理することはできません。スタック マスターには、1 台または複数のスタック メンバーのコンソール ポートを経由して接続できます。複数の CLI セッションをスタック マスターに使用する場合は注意が必要です。1 つのセッションで入力したコマンドは、別のセッションには表示されません。したがって、コマンドを入力したセッションを追跡できない場合があります。



(注)

スイッチ スタックを管理する場合は、1 つの CLI セッションを使用することを推奨します。

特定のスタック メンバー ポートを設定する場合は、CLI コマンド インターフェイス表記にスタック メンバー番号を含めてください。インターフェイス表記の詳細情報については、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーション ガイドの「Configuring Interfaces」を参照してください。

特定のスタック メンバーをデバッグする場合は、**session stack-member-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからアクセスできます。スタック メンバー番号は、システム プロンプトに追加されます。たとえば、Switch-2# はスタック メンバー 2 のイネーブル EXEC モードのプロンプトであり、スタック マスターのシステム プロンプトは Switch です。特定のスタック メンバーへの CLI セッションで使用できるのは、**show** コマンドと **debug** コマンドに限ります。

CLI コマンドモード

ここでは、CLI コマンドモード構造について説明します。コマンドモードは、特定の Cisco IOS コマンドをサポートします。たとえば、**interface interface-id** コマンドは、グローバル コンフィギュレーションモードで入力されたときだけ機能します。

以下は、スイッチの主なコマンドモードです。

- ユーザ EXEC
- イネーブル EXEC
- グローバル コンフィギュレーション
- インターフェイス コンフィギュレーション
- config-vlan
- VLAN コンフィギュレーション
- ライン コンフィギュレーション

表 1-1 に、主なコマンドモード、各モードへのアクセス方法、各モードで表示されるプロンプト、およびモードの終了方法を示します。表示されているプロンプトは、デフォルト名 *Switch* を使用しています。

表 1-1 コマンドモードの概要

コマンドモード	アクセス方法	プロンプト	終了または次のモードのアクセス
ユーザ EXEC	これが最初のアクセス レベルです。 (スイッチについては) 端末設定を変更し、基本タスクを実行し、システム情報を一覧表示します。	Switch>	logout コマンドを入力します。 イネーブル EXEC モードを開始するには、 enable コマンドを入力します。
イネーブル EXEC	ユーザ EXEC モードから、 enable コマンドを入力します。	Switch#	ユーザ EXEC モードに戻る場合は、 disable コマンドを入力します。 グローバル コンフィギュレーションモードを開始するには、 configure コマンドを入力します。
グローバル コンフィギュレーション	イネーブル EXEC モードから、 configure コマンドを入力します。	Switch(config)#	イネーブル EXEC モードに戻る場合は、 exit または end コマンドを入力するか、 Ctrl-Z を押します。 インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始するには、 interface コンフィギュレーション コマンドを入力します。
インターフェイス コンフィギュレーション	グローバル コンフィギュレーションモードから、 interface コマンドを入力し、次にインターフェイス ID を入力することにより、インターフェイスを指定します。	Switch(config-if)#	イネーブル EXEC モードに戻る場合は、 end コマンドを入力するか、 Ctrl-Z を押します。 グローバル コンフィギュレーションモードに戻る場合は、 exit コマンドを入力します。

表 1-1 コマンドモードの概要 (続き)

コマンドモード	アクセス方法	プロンプト	終了または次のモードのアクセス
config-vlan	グローバル コンフィギュレーションモードで vlan vlan-id コマンドを入力します。	Switch(config-vlan)#	グローバル コンフィギュレーションモードに戻る場合は、 exit コマンドを入力します。 イネーブル EXEC モードに戻る場合は、 end コマンドを入力するか、 Ctrl-Z を押します。
VLAN コンフィギュレーション	イネーブル EXEC モードから、 vlan database コマンドを入力します。	Switch(vlan)#	イネーブル EXEC モードに戻る場合は、 exit コマンドを入力します。
ライン コンフィギュレーション	グローバル コンフィギュレーションモードから、 line コマンドを入力することにより、ラインを指定します。	Switch(config-line)#	グローバル コンフィギュレーションモードに戻る場合は、 exit コマンドを入力します。 イネーブル EXEC モードに戻る場合は、 end コマンドを入力するか、 Ctrl-Z を押します。

ユーザ EXEC モード

装置にアクセスすると、自動的にユーザ EXEC コマンドモードに入ります。ユーザレベルで使用可能な EXEC コマンドは、イネーブルレベルで使用可能な EXEC コマンドのサブセットです。一般に、ユーザ EXEC コマンドは、端末設定の一時的変更、基本テストの実行、システム情報の一覧表示などに使用します。

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンド全体のリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch> ?
```

イネーブル EXEC モード

イネーブル コマンドの多くは動作パラメータの設定に関係しているので、無許可の使用を防ぐため、イネーブル コマンドへのアクセスはパスワードで保護する必要があります。イネーブル コマンドセットには、ユーザ EXEC モードのコマンドと、それ以外のコマンドモードにアクセスするための **configure** イネーブル EXEC コマンドが含まれます。

システム管理者がパスワードを設定した場合は、イネーブル EXEC モードへのアクセスが許可される前にパスワードの入力を要求するプロンプトが表示されます。パスワードは画面には表示されません。また、大文字と小文字が区別されます。

イネーブル EXEC モードのプロンプトは、装置名のあとにポンド記号 (#) が付きます。

```
Switch#
```

イネーブル EXEC モードにアクセスするには、**enable** コマンドを入力します。

```
Switch> enable
Switch#
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンド全体のリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch# ?
```

ユーザ EXEC モードに戻る場合は、**disable** イネーブル EXEC コマンドを入力します。

グローバル コンフィギュレーション モード

グローバル コンフィギュレーション コマンドは、装置全体に影響を与える機能に適用されます。グローバル コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デフォルトでは、管理コンソールからコマンドを入力します。

configure コマンドを入力すると、コンフィギュレーション コマンドの送信元の入力を要求するメッセージが表示されます。

```
Switch# configure  
Configuring from terminal, memory, or network [terminal]?
```

コンフィギュレーション コマンドの送信元として、端末または NVRAM (不揮発性 RAM) のいずれかを指定できます。

次の例では、グローバル コンフィギュレーション モードにアクセスする方法を示します。

```
Switch# configure terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンド全体のリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(config)# ?
```

グローバル コンフィギュレーション コマンド モードを終了してイネーブル EXEC モードに戻る場合は、**end** コマンドまたは **exit** コマンドを入力するか、**Ctrl-Z** を押します。

インターフェイス コンフィギュレーション モード

インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、インターフェイスの動作を変更します。インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、常にインターフェイス タイプを定義するグローバル コンフィギュレーション コマンドのあとに来ます。

インターフェイス コンフィギュレーション モードにアクセスするには、**interface interface-id** コマンドを使用します。次の新しいプロンプトはインターフェイス コンフィギュレーション モードを示しています。

```
Switch(config-if)#
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンド全体のリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(config-if)# ?
```

インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了してグローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、**exit** コマンドを入力します。インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了してイネーブル EXEC モードに戻る場合は、**end** コマンドを入力するか、**Ctrl-Z** を押します。

config-vlan モード

標準範囲 VLAN (仮想 LAN) (VLAN ID 1 ~ 1005) を設定したり、VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキング プロトコル) モードがトランスペアレントであるときに拡張範囲 VLAN (VLAN ID 1006 ~ 4094) を設定したりする場合は、このモードを使用します。VTP モードがトランスペアレントである場合は、VLAN 設定および VTP 設定は実行コンフィギュレーション ファイルに保存されるので、**copy running-config startup-config** イネーブル EXEC コマンドを実行して、これをスイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存できます。VTP がトランスペアレント モードまたはサーバモードの場合、VLAN ID が 1 ~ 1005 の VLAN の設定は、VLAN データベースに保存されます。拡張範囲 VLAN 設定は、VLAN データベースには保存されません。

config-vlan モードを開始するには、**vlan vlan-id** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力します。

```
Switch(config)# vlan 2000  
Switch(config-vlan)#
```

サポートされるキーワードは、同じではありませんが、VLAN コンフィギュレーション モードで利用できるコマンドと類似しています。コマンド全体のリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(config-vlan)# ?
```

拡張範囲 VLAN については、Maximum Transmission Unit (MTU; 最大伝送ユニット) サイズ以外のすべての特性は、デフォルト設定のままにしておいてください。

グローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、**exit** を入力します。イネーブル EXEC モードに戻る場合は、**end** を入力します。**shutdown** 以外のすべてのコマンドは、config-vlan モードを終了したときに有効になります。

VLAN コンフィギュレーション モード

VLAN コンフィギュレーション コマンドを使用すれば、VLAN ID 1 ~ 1005 の VLAN パラメータを作成または変更できます。

VLAN コンフィギュレーション モードにアクセスするには、**vlan database** イネーブル EXEC コマンドを入力します。

```
Switch# vlan database  
Switch(vlan)#
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンド全体のリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(vlan)# ?
```

イネーブル EXEC モードに戻る場合は、**abort** VLAN コンフィギュレーション コマンドを入力して、設定しようとしたデータベースを放棄します。または、**exit** を入力して、設定しようとする新しい VLAN データベースを実装し、イネーブル EXEC モードに戻ります。**exit** または **apply** を入力した場合、設定が VLAN データベースに保存され、VLAN コンフィギュレーション モードからの設定はスイッチ コンフィギュレーション ファイルに保存することはできません。

ライン コンフィギュレーション モード

ライン コンフィギュレーション コマンドは、端末回線の動作を変更します。ライン コンフィギュレーション コマンドは、常に回線番号を定義するライン コマンドのあとに来ます。端末パラメータ設定を回線ごと、あるいはある範囲の回線全体で変更するには、このコマンドを使用します。

ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty line_number [ending_line_number]** コマンドを使用します。新しいプロンプトは、ライン コンフィギュレーション モードを示しています。次の例では、仮想端末回線 7 でライン コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
Switch(config)# line vty 0 7
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンド全体のリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(config-line)# ?
```

ライン コンフィギュレーション モードを終了してグローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、**exit** コマンドを使用します。ライン コンフィギュレーション モードを終了してイネーブル EXEC モードに戻る場合は、**end** コマンドを入力するか、**Ctrl-Z** を押します。

Cisco IOS 12.2(18)SE で変更されたコマンド

表 1-2 では、Cisco IOS Release 12.2(18)SE より前のソフトウェア リリースと機能は同じでも、構文が変わっているコマンドについて説明します。

表 1-2 変更されたコマンド

Cisco IOS Release 12.2(18)SE より前のリリース	Cisco IOS Release 12.2(18)SE 以降	説明
show ip igmp snooping multicast	show ip igmp snooping groups	スイッチの IGMP ¹ スヌーピング マルチキャスト テーブルまたはマルチキャスト情報を表示します。
debug autoqos	debug auto qos	Auto-QoS ² 機能のデバッグをイネーブルにします。

1. IGMP = Internet Group Management Protocol
2. Auto-QoS = 自動 Quality of Service (QoS; サービス品質)

